

議 会 広 報 広 聴 委 員 会 記 録

令和 2 年 7 月 30 日 (木)
15 時 00 分～16 時 22 分
第 4 委 員 会 室

【出席者】 三浦委員長、西川副委員長、
村武委員、川上委員、小川委員、野藤委員、笹田委員、芦谷委員、
佐々木委員、澁谷委員

【事務局】 下間次長、小寺書記

議題

1 議会報告会（地域井戸端会）の実施について

2 議題1に伴う紙面の変更案について……………資料1

3 その他

【議事の経過】

[15時 00分 開議]

三浦委員長

ただいまから議会広報広聴委員会を開催する。出席委員は9名で定足数に達している。

一昨日に委員会を開催し、また今日集まっていたき、恐縮である。

招集した理由は、昨今の新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況を踏まえ、浜田での議会報告会、地域井戸端会の開催を見送ったほうがよいのではないかとされ、全会一致で見送りが決まった。しかし見送るだけでは広聴機能が低下するので、別の案をという話になった。

議長に伺ったところ、委員会の判断は尊重するが、やらないのなら代替案を示すのがよいのではないかという意見をいただき、再度皆に集まっていた。次回の委員会で代替案を協議する予定だったが、今回議会だよりに掲載するタイミングが近かったため、皆に案をお示しし、協議したいと思う。

1. 議会報告会（地域井戸端会）の実施について

2. 議題1に伴う紙面の変更案について

三浦委員長

早速、資料案があるのでご覧いただきたい。案1と案2がある。案1はお詫びと代替案として、アンケートをこれから議会だよりにつけて、それを回収していく仕組みをやっていくことを示している。もちろんこれに限らず広聴機能を検討していくことを申し添え、代替案をお示しすることで再延期を案内するもの。

案2は代替案を示さずに再延期の案内をするものである。

案1と案2どちらがよいか、皆にお諮りしたい。もし案3として別意見があればお聴かせいただきたいが、紙面の都合上あまり時間がなないので深い議論はしにくい状況であることもご理解いただきたい。

小川委員

個人的には案1のほうがよい。5月と10月、2回も延期となる。議員定数のアンケートでも市民の意見をもっと聴いてほしいという要望があった。議会だよりの感想を寄せてもらう方式があってもよいという話も出ていた。非常によいと思う。意見箱を設置した際は、担当議員を公民館ごとに決める作業も出てくる。ただ、個人的には冊

三浦委員長

子を切り取るのは好きではないので気になりはした。

代替案は議会だよりに切り取り線を入れたが、簡単な設問と、自由意見を書く欄、議会だよりに関する意見感想などの設問を設けた。今回は案として、市の新型コロナウイルス感染症対策をどう思うかとあるが、ここは毎回変わる。自由記入欄もある。これと同じ内容を、先般議員定数のアンケートを取った時と同じ手法を使い、ウェブアンケートも用意する。これをどう回収するのだが、市内26の各公民館に意見箱を設置し、投函できる形をとる。定期的に議員が回収に行く。26カ所あるので、当面は当委員会メンバーで担当することになると思う。いただいた意見については次号で必ず戻しつつ、地域井戸端会と同じように各所管委員会に届ける。

西川副委員長

議員定数のアンケートを読んで、前向きな意見が多少あった。こういうアンケートはよいというのを踏まえてのことでもあるし、今回受けたものを次号にまとめて出す流れを作れば面白いと思ったのでやってみたい。

笹田委員

アンケートの取りまとめ方法だとか、集めた後のこと、この委員会の誰がするのか。回答期限が書いてない。期限がないと集約する時間もわからない。取るのであればしっかり書いて、これから後に送られたとしても次の号に反映されないのでは、書いておいてほしい。これだけ短いのなら設問は少なくてよいと思う。とりまとめが大変でもある。出しやすい形のほうがよいと個人的に思った。

野藤委員

案2がよいと思ったのだが、案1は字数が多い。読んでわかるのかなど。字数をシンプルにまとめて、地域井戸端会再延期のお知らせと、代替案としてアンケートを取る、3つ目はウェブのminiを載せますということも入れられると思う。広報の部分、代替案として広聴部分、ウェブ部分と3つくらいにしてお知らせすれば、アンケートのことも入れられる。文字数を考えれば、入るのではないか。そういう意味で案2のほうが、メリハリがあってわかりやすい。案1と案2の折衷案というか。

三浦委員長

案1ということか。

野藤委員

案1の変形。案2にいろいろ書いてあるが、もっとシンプルに書けるかと思った。

三浦委員長

案1は裏面に「浜田議会だよりmini、10月1日から発行」と短く入れている。野藤委員の意見だと、これくらい短縮してほかを簡

野藤委員 野藤委員 三浦委員長 野藤委員 三浦委員長 野藤委員 小寺書記 野藤委員 三浦委員長 村武委員 小寺書記 川上委員 芦谷委員 三浦委員長 芦谷委員 小寺書記 芦谷委員

潔にしたらどうかと。

読みやすい、読んでいただける文字数があると思う。そのほうがよいのかなと。

案1に賛成ということでよいか。

はい。

設問の3と4はまとめられるかもしれない。

はい。回答者様と書くほうがよいのか、皆様と書くほうがよいのかというのも思った。

あなたの、とかもある。

回答者様、というのはあまりにかしこまっている。

表現は工夫する。

私も案1でよいと思う。ただ、野藤委員も言われたが、この文章をもう少し簡潔にされたほうがわかりやすいかと思った。たぶん大丈夫だと思うが、公民館に意見箱を置いていただくので、生涯学習係には出す前に連絡したほうがよい。

すでに連絡して内諾はいただいている。

基本的には案2がよいと思っている。なぜなら、案1は確かに広聴部分はよいが、説明を読まない気がする。案2はしっかり読む、なおかつ広報部分が浮き出ている。差し向き案2で、問題があれば何か考えたほうがよい。

今発行しようとしている15ページの半分か。

ほかにスペースがない。当初の地域井戸端会のお知らせを案内するスペースを活用する。

見開きか。

裏面になる。

広聴は大事だが、急な感じがする。もう少し議会として広聴機能について考える必要がある。議長なんでもメールもあるのに、その声が上がっているか。アンケートにしても、いつまでかということと、内容がふわっとしている。やるならずっとやらないといけないし、やるならやるで形式的なこともやらないと。ただ今回の申し開き程度でやるのはどうかと思う。

中止のお詫びだけして、もう一度考えて、議会総意で方向性を出したほうがよい。もしアンケートにするなら設問内容をもう少し精査するべき。議長なんでもメールはどれくらい利用されているか。

- 下間次長 たまにある程度。あれはウェブなので、どのくらいの人がホームページから見てもらっているか。
- 三浦委員長 議長なんでもメールを入れてください、というのはこちらが待ちになる。アンケートならこちらから尋ねてリアクションを求める形になるので、コミュニケーションのスタイルが違う。ただ、おっしゃっているように具体的な設問を設けるべきというのは一意見として伺っておきたい。
- 佐々木委員 議長の思いもよくわかるし、それに沿った意見は昨日も出た。案1について基本的に、これを機に、前回のアンケートを踏まえて常設するということだろう。その第1回目がこれということで。そうすると、前回のアンケートを踏まえた動きなのでよいと思う。昨日の今日で作ったので仕方ないが、設問を少し、今回はコロナ対策についてだが、市民はコロナ対策がわかっているようでわかっていない。浜田市がやっていることを教えてほしいと言われる。新聞でも報道されないので、何をやっているか伝わっていない。その状態で評価をすると誤った評価につながりかねない。内容について検討する必要がある。例えばアンケートの回答が多かった、市民の声を聴いてほしいということについて、どういうことをやってほしいかとか。広報広聴機能が生かせるところからやったらどうかと思う。常設でアンケートをやるとなるとそういう流れがよい。
- あと、案2も今後検討するということなので、アンケートとは別のことを考えるのだろうが。案1でやったほうがよいと思う。
- 自由スペースは1つのほうが書きやすいし問いやすい。ウェブも今後検討なのだろうが、気になるのが、議長の活動の様子など掲載ということで、限られた紙面の中で、代表者である議長の活動を知ってもらうのは重要だろうが、それよりは各議員が所属する委員会が何をしているかではないか。委員会の動きを積極的に伝えたほうがよいのでは。案1のほうを基準に内容を精査したらどうかと思う。
- 三浦委員長 意見が分かれている。確かにアンケートの内容についてはもう少し精査する必要を私も感じる。ここにアンケートボックス設置と、議会だよりを使ったアンケートの手法は、今できることとして提案した。今後皆から広報広聴機能の案を出してもらって、協議する中にアンケートの手法も出るだろうし、それをやる、やらないはこれから協議しようというのが前回の委員会だったので、もう少し議論

を詰めて実施したほうがよいという意見も理解するし、いややろうよ、何かできることを示して再延期したほうがよいという意見についても、ブラッシュアップして何かしら提案しないといけないと思う。

笹田委員

今まで広報広聴やってきて、広聴機能は力がない。前回のアンケートで、こういったアンケートを取ってほしいという意見があった以上は早急な対応という意味でやったほうがよいと思う。ただ、議会報告会や地域井戸端会は今の状況で開催するわけにいかないの、それにかわる何か、新たな広聴方法を今後示す必要があると思うが、それはまだ話し合っていないので皆で意見を決めてからという、二枚看板でやったほうがよい。広聴機能としてのアンケートという方法は人との接触がないのでやりやすい。今までやってきて、前回やってきて、市民が望んでいるのでやったほうがよい。正副委員長がこうして案を出してくれた以上は、やるべきである。

野藤委員

やってみて改善はできる。内容だが、9月1日号で令和2年10月1日に設置するというのは遅いのでは。8月末から設置しているということにして9月1日で配れば、すぐ入れてもらえるのでは。早めに設置して、次号で紹介するとともにというのは議会だよりで紹介するとすれば、締め切りがいつかというより定期的に議員が回収に行くとき書いてあるので、それはよいのかなと。9月に入ればもう議会なので、なかなか設置に行けない。8月中に作って置いておけばよいのでは。常に広聴機能として持っておく。

川上委員

案1の赤文字の代替案というのがひっかかる。代替案というのを抜きにしてやっていけばよい。これはルーティーンですとのだと。

三浦委員長

地域井戸端会の代替ではなく、これはこれでやると。

川上委員

はい。地域井戸端会の代替は別に考える。

笹田委員

これはあくまでも議長が考える部分の代替案で、この委員会の中の。

川上委員

代替であるならこういう形にしてほしいという要望があるかもしれない。

野藤委員

確かに丁寧に書きすぎていて字数が多い。同じような内容だが「同様の内容でウェブアンケートもご用意しています。アンケート欄のQRコードからアクセスしてご回答ください」というのは、QRコードに添えて「ウェブの回答はこちら」と書けばわかる人はわ

- かる。そうすると字数は減る。
- 村武委員 結局、毎号続けていくのか。
- 三浦委員長 はい。
- 村武委員 どれくらい回収できるか、回答者は予測できないが、アンケートをまとめる事務局が大変では。
- 西川副委員長 私がやる。
- 村武委員 次のことも考えてのことか。副委員長がいつまでされるかわからない。
- 三浦委員長 委員会の総意として行うので、正副委員長だけでこの作業全てを賄うつもりはない。委員の皆に協力いただきたい。顔ぶれが変わってもここで決まったことは議会のスタンスとして、改選があっても申し送りで引き継ぎたい。それを決める場でもある。
- 村武委員 皆で役割分担してやるのであればよい。正副委員長にだけ任せるのは、次の方が大変である。
- 野藤委員 データ化すれば早いのではないかと思うのだが。
- 笹田委員 役割分担も正副委員長で考えて全体で仕事ができるようにしてもらえばよい。もう1つ欲を言うなら、続けるならホームページにアンケートというページを作って、都度どんなアンケートがあったか市民が見られるようにしておく、このアンケートについてはこの回収があったとわかるので、材料になると思う。そこまで考えていただき、全員が役割分担するように。やる以上は全員でやったほうがよい。
- 三浦委員長 協力をいただけないと始められないし、続けられない。負荷が多いといった意見も踏まえて何う。
- 野藤委員 どれくらい集まるかわからない。なるべく省略可できる形でやってみるしかない。
- 笹田委員 興味のある内容なら回答は多い。
- 西川副委員長 恐らくそれほど来ないと思う。前回を見ても、ウェブでやる人は多い。紙はそれほど多くないと思う。ウェブ回答なら集計は楽なはず。今回これをやることで少し変わったという印象があって、何度かやるうちに厳しい意見から雰囲気が変わればよいと期待する。
- 村武委員 アンケートの上に、例えばアンケート（〇号）とあったほうがよいようにも思った。パッと見て、どの号かわからない。
- 三浦委員長 原稿はいつまでに必要か。

小寺書記 3日月曜に最終校正確認をするので、それまでに間に合えば。

三浦委員長 改めてお尋ねするが、アンケートを実施することについて賛成の方は。

川上委員 自分は賛成する。

三浦委員長 芦谷委員はいかがか。

芦谷委員 決めてもらえば進めてもらってよいが、アンケートをやった感だけになる気がする。やって回収して、一体どう整理してどう活用するかまで持っておかないといけないのと、この10人のメンバーだけではなく、まだもう14人いるので。今回の決定が後々に禍根を残してもいけない。拙速な気がする。あと14人にも理解してもらえればよいが、アンケート集約も集計の仕方も見えない。

三浦委員長 暫時休憩とする。

[15時 39分 休憩]

[15時 51分 再開]

三浦委員長 会議を再開する。意見を伺っていると、アンケート設問内容については再考するべきではないか、アンケートを取ることは地域井戸端会の代替には直接的にはならないが、できることから始めて、代替プランについては引き続き検討するという事だったように思う。設問について具体的に皆の考えを出していただき、こちらでまとめていく進め方を取りたい。設問についてご意見をいただきたい。

設問3と4は1つにまとめると設問が1つ減ると思う。

(「それがよい」という声あり)

佐々木委員 今回のアンケートでもあった意見で、もっと市民の声を聴いてほしい、そのためにどういうことが必要か、番号をあげて、これまでのように議会報告会、地域井戸端会、いくつか挙げて、より市民と懇談する機会を設けるにはどうすればよいか、市民から案を取るのも1つの方法かと思う。

三浦委員長 そうすると、案の中で今回のトピックスでもあったコロナ対策の設問をやめて、広報広聴機能としてどういう手法がよいと思われるかとして、議会だより、地域井戸端会、ホームページ、アンケートといったことを提示する設問をしたらよいということか。

笹田委員 回答が来ない気がする。

- 川上委員 市のコロナ対策についてどう思うかだけでよいと思う。Q3で、佐々木委員が言われたような内容を書いて、丸をつけてもらう。その程度の質問でよいと思う。
- 笹田委員 返してもらわないと意味ないので、なるべく返しやすい内容にしておく必要がある。コロナについては出すかもしれない。この間も、まだ書きたい人は書くだらう。とにかく返してもらわないといけない。
- 三浦委員長 市のコロナ対策について聞くと市の話になるが、議会として対策支援本部を設置して申し入れしたことが書いてある。議会のコロナ対策活動についてどう思われるか、と質問すれば議会への回答が得られると思う。
- 笹田委員 それならよい。
- 三浦委員長 せっかくなら議会に対してのことを聞きたい。
- 芦谷委員 アンケートの表現は考えるが、コロナに対する市民の感想が1点と、もう1点は、広報の中で特に関心を持って見ていただいたこと。それと紙面の改善、工夫。設問2、3のところと、1番目にコロナについて何か意見を聞く設問を書いて、4番目にその他。
- 小川委員 要点を絞る必要がある。例えば佐々木委員が言われたように、市民の声を反映させるためにどういう方法がよいかを聞いてもよいだろうし、これも1つのポイントと思う。議会だよりそのものの感想を求めてもよいし、市政全般に対してというとコロナのことを聞いてもよい。その3つを柱にしたらどうか。今回は市政全般の中でもとりわけコロナ対策云々となると、市の施策よりはやはり議会のことを聞いたほうがよい。
- 佐々木委員 広聴のところを聞きたかった。広報はいろいろな方法をやっている程度充実している。心配なのは広聴で、自分の意見をどうやったら聴いてもらえるか、どうすれば聴きにきてもらえるのか、どうやれば伝わるのかを求めている声が多かった。それを穴埋めする方法をこちらから考え、市民からも聴くことが大事だと思った。
- 議会報告会や地域井戸端会は過渡期にきていて、市民団体の会合に呼んでもらって参加するなど、市民に求められれば飛び込んでいけばよい。
- 野藤委員 回答を求めるのにあまり間口を広げてもいけないし、狭くてもいけない。1番気になるところは何かという聞き方でもよいのかな。人

- 口減が気になる、出生数が気になる、1番の関心事は何かとか。年齢や性別で、年代別の関心事がわかる。そういうのでもよいのかと思う。
- 西川副委員長　　まず答えてくれるかどうか2問目で、トピックス的なところ。そして選択してもらうことから入った方が書きやすいかなと。
- 野藤委員　　例えばPCR検査どうなっているのかとか、そういうことなら書きやすいかと。
- 佐々木委員　　聞かれたり問われたりしても、それに対する答えが出しにくいことは返ってこない。人口減少などは全国的なテーマでもあるし、それに対する答えはなかなかない。こちらが答えを決めておいて丸をしてもらうような設問でないと、市民とのやりとりは難しいのでは。いろいろな問題を持っているので、書く人は書くだろうが難しい。
- 笹田委員　　議会としてのコロナの動きについて聞いたほうがよい。議会のためのアンケートだから。それプラス自由記述でよい。あまり自由記述だけ多くても何のアンケートかわからない。議会の動きに対してどう思っているかを基準に聞いて、あとはフリー。少なくやったほうがよい。どういう反応が返ってくるかわからない。議会の動きを知りたい。
- 三浦委員長　　そうすると例えばQ1で「皆さんの情報をお聞かせください」で情報を聞く。Q2で「今のコロナ禍における議会の対応についてどのように思われますか。P2をご参照ください」という設問にして、Q3は「ご自由にご意見などをお聞かせください（今号の議会だよりに対するご意見）」といった形にして、すごくシンプルにするか。
- 野藤委員　　コロナ対策についてどう思うか設問があって、その下に記述欄をつけたほうがよい。
- 三浦委員長　　それがベストだと思うが、そうするとスペースがどうか。
- 野藤委員　　Q3とQ4が一緒になるだろう。Q1で情報を聞いて、Q2で今回のコロナ禍の対応を聞いて、Q3で浜田市議会に対してご意見をお聞かせください、としたらとも思ったりする。
- 三浦委員長　　箱を分けたほうがよいか。
- 笹田委員　　正副委員長に任せたらどうか。
- 芦谷議員　　一任、一任。
- 三浦委員長　　では預らせていただき検討する。今回2つの案を提案したが、代替案ではなくアンケートは実施する、代替案は引き続き検討する。

このアンケートを実施する、回収箱を設置するということは、端的に皆の意見を反映して書き直す。その下に、議会だよりminiを入れられるようにする。

前回、議会だよりminiを発行することには了解をいただいたが、中身についてはもう少し検討が必要ということで、練り直す。

アンケートについてはこちらで預からせていただき、ご意見を反映して書き直す。

下間次長

アンケートの結果は次の号に載せるか。

三浦委員長

定期的に回収して、締め切りを設けずに。

下間次長

問われたことへの回答はしていくか。

三浦委員長

基本的には戻す必要があるので、ホームページや議会だよりに載せるが。

下間次長

市への要望だと市へ返すのか。

三浦委員長

市政へのご意見は入ってくるだろう。それは所管委員会に伝えればよいのでは。

笹田委員

最後は浜田市議会に対する、と書けばよい。

三浦委員長

では最後は浜田市議会とする。

川上委員

設問が変わるのならやはり次号に結果は載せるべき。

三浦委員長

では次号で報告にするか。

川上委員

回収までの時間が短い。次号発行までを締め切りにして、回答については難しいところだ。

野藤委員

「ご意見については各所管委員会に届け共有させていただく」としたらどうか。

芦谷委員

あまり決めずに、広聴機能の話の時にでもしたらどうか。

野藤委員

あまり書いてしまうと自分の首を絞めることになる。

西川副委員長

どうせやりっ放しだとか、回答などないだろうと書かれていた。来たものをこういう形で返すというサイクルがあるほうがよいと思う。

野藤委員

ウェブ版などで回答できないか。

笹田委員

負担が増える。

西川副委員長

紙で出した人はウェブ版を見ないだろう。

佐々木委員

紙で出したらどうか。差し込みで。

三浦委員長

お金がかかる方法はできない。明確な締め切りは設定できるか。

小寺書記

イメージは1カ月間。次が12月1日に出る。

- 三浦委員長 発刊月の月末。
- 笹田委員 では今回は9月末締め切りか。
- 村武委員 こういう質問があったのかなのか、それとも質問への回答か。
- 西川副委員長 集計して載せる。
- 村武委員 意見、感想は対応しないのか。
- 笹田委員 全部ではないが。
- 村武委員 意見がありました、とするのか。
- 西川副委員長 アクションができるものには応えるが、そこまで時間がないかもしれない。
- 小寺書記 どうなるかやってみないとわからない。
- 野藤委員 紙ベースでやって、現実として出てくるのだから。
- (以下、自由討議)
- 三浦委員長 評価できる、評価できないとして集計できるものは集計すればよいし、聞かれたことは答えないといけない、それが広聴なので。
- 笹田委員 でも全部は返せない。
- 小川委員 地域井戸端会はそういうスタイルだったのだから、そういうスタイルでよい。
- 野藤委員 やってみるしかない。
- 笹田委員 このアンケートの返答は1ページか。
- 三浦委員長 新しい紙面割を検討する際に考える。どれくらいスペースが取れるかは検討したい。
- 笹田委員 そうなるともう1つのアンケートの分も取らないといけない。ほかの記事に支障が出る。集計部分と少しの意見なのかと思った。ずっと詳しくやるとページ数が必要。
- 三浦委員長 きちんとそのページの中で、会話しているというか、情報のやりとりができている状態を作る機会なので。基本的には。
- 笹田委員 数字が出せる質問なら数字を出して、ほかの意見に答えないというのはだめだ。回答ルールを決めておくべき。回答については別でやるとか。スペースも限られている。
- 三浦委員長 基本的には地域井戸端会と同じようなものとして。あれも意見全てを掲載はできない。そこは検討したい。
- では、ご意見を反映しながらこれでやってみてよいか。
- 佐々木委員 広聴もいずれ。
- 笹田委員 これは再延期のお知らせになるのか。またいつできるかわからな

三浦委員長
佐々木委員

い状態で。どういう書き方がよいのか。

先がわからない。

地域井戸端会、議会報告会が今求められているかもわからない。
全体の広聴活動について考える機会を与えてもらった。もっとやり
やすい方法があると思う。

三浦委員長
笹田委員
佐々木委員
野藤委員
三浦委員長

中止にするのか。

再考はどうか。

市民の皆の意見を聴きやすい方法を。

中止のほうがわかりやすくはある。

中止でよいか。

(「はい」という声あり)

村武委員
三浦委員長

開催すると言っていたらどうか。

では中止という表現にする。

3. その他

三浦委員長

ほかにご意見はあるか。

(「なし」という声あり)

ではこちらで早急に作業を進め、我々に一任いただいたというこ
とで進めさせていただく。よろしいか。

(「はい」という声あり)

では以上をもって議会広報広聴委員会を終了する。

[16時 22分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 三浦 大紀